

三菱UFJフィナンシャル・グループ

平成21年度第1四半期決算ハイライト

平成21年7月31日

● 損益サマリー	2
● B/Sサマリー	3
● 貸出金・預金	4
● 貸出資産の状況	5
● 保有有価証券の状況	6
● 保有証券化商品等の状況	7

＜本資料における計数の定義＞

連結	：	三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）
2行合算	：	三菱東京UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算

●業務純益

- 資金利益は海外貸出収益の増加、外貨調達コストの減少のほか、アコム連結化により増加
- 「信託報酬+役員取引等利益」は海外貸出関連手数料の増加があったものの、投信関連収益、信託報酬を中心に減少
- 営業費は経費削減が進捗、統合効果もあり、アコム連結要因除けば減少

●与信関係費用総額

- 2行合算では減少したものの、その他の連結子会社での増加、アコム連結化により増加

●株式等関係損益

- 株式等償却負担の減少、売却益の増加により損失計上から利益計上に

●その他の臨時損益

- 退職給付費用の増加、持分法投資損益の減少を主因に減少

<連結P/L>

(単位:億円)

	20年1Q	21年1Q	増減
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	8,012	8,734	721
2 資金利益	4,700	5,552	852
3 信託報酬+役員取引等利益	2,716	2,577	▲139
4 特定取引利益+その他業務利益	595	604	9
5 うち国債等債券関係損益	73	178	104
6 営業費	5,365	5,415	50
7 実質業務純益	2,647	3,318	671
8 与信関係費用*1	▲1,431	▲1,898	▲467
9 株式等関係損益	▲101	302	403
10 その他の臨時損益	▲145	▲359	▲213
11 経常利益	968	1,363	394
12 特別損益	95	29	▲65
13 法人税等+法人税等調整額	288	465	176
14 四半期純利益	511	759	247
15 与信関係費用総額*2	▲1,417	▲1,898	▲481
16 うち2行合算	▲1,039	▲733	305

*1 与信関係費用=与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額
+与信関係費用(臨時損益内) (▲は費用)

*2 与信関係費用総額=与信関係費用+偶発損失引当金戻入益(与信関連) (▲は費用)

<ご参考>

(単位:円)

17 1株当たり利益	4.91	6.52	1.61
18 連結ROE *3	2.94%	4.12%	1.17%

*3

(四半期純利益×4) - 非転換型優先株式年間配当相当額

{(期首株主資本合計 - 期首発行済非転換型優先株式数×払込金額 + 期首為替換算調整勘定) × 100
+ (四半期末株主資本合計 - 四半期末発行済非転換型優先株式数×払込金額
+ 四半期末為替換算調整勘定)} ÷ 2

●貸出金

- 国内法人貸出の減少を主因に21年3月末比減少

●有価証券

- 国債の増加により21年3月末比大幅な増加

●預金

- 個人預金のほか、海外店預金等が増加し、21年3月末比増加

●開示債権

- 21年3月末比では、開示債権が増加し、開示債権比率は1.33%に上昇

●その他有価証券評価損益

- 株式相場の上昇により評価損益は21年3月末比増加し評価益を計上

<連結B/S>

(単位: 億円)

	21年3月末	21年6月末	増減
1 貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	922,566 [920,568]	912,320 [910,449]	▲10,245 [▲10,118]
2 うち国内法人貸出*1	502,392	492,571	▲9,821
3 うち住宅ローン*1	173,642	173,155	▲487
4 うち海外貸出*2	194,885	193,991	▲893
5 有価証券(銀行勘定)	483,141	531,571	48,430
6 預金	1,201,495	1,222,328	20,832
7 うち個人預金(国内店)	628,816	636,008	7,192
8 国内預貸金利回り差 (2行合算)	(20年下期) 1.44%	(21年1Q) 1.37%	▲0.06%
9 金融再生法開示債権*1	11,899	12,457	557
10 開示債権比率*1	1.24%	1.33%	0.08%
11 その他有価証券評価損益	▲9,177	701	9,879

*1 2行合算+信託勘定

*2 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU(中国)

●貸出金残高 91.2兆円
(21/3比 ▲1.0兆円)

<21/3比増減の主要因>

- 国内法人貸出 ▲0.9兆円
- 海外貸出*1 ▲0.08兆円

*1 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU (中国)

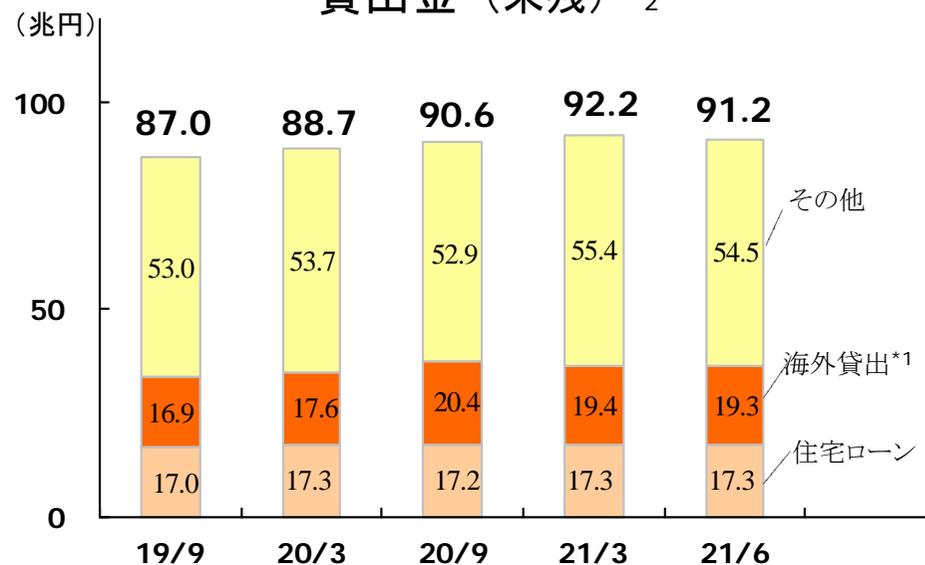
*2 銀行勘定+信託勘定

●預金残高 122.2兆円
(21/3比 +2.0兆円)

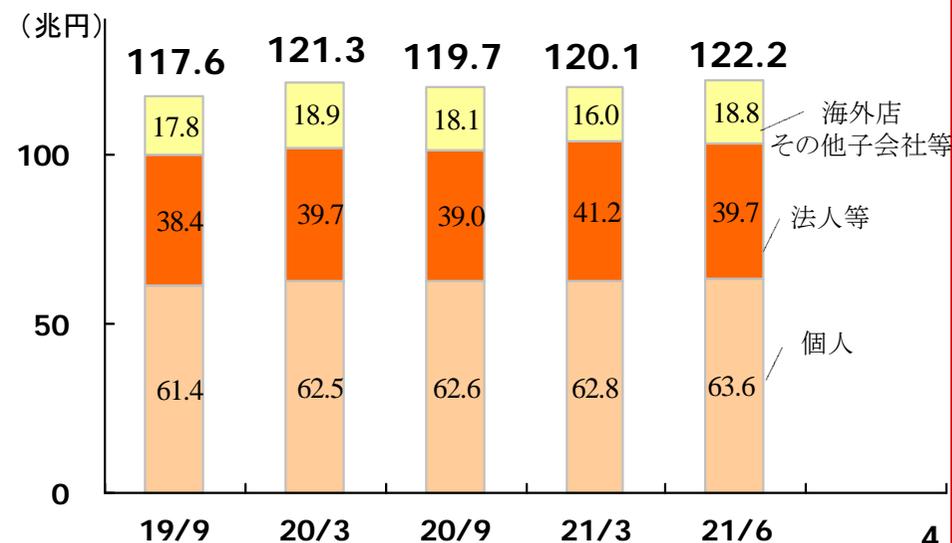
<21/3比増減の主要因>

- 個人預金 +0.7兆円
- 法人等預金 ▲1.4兆円
- 海外店預金 +2.1兆円

貸出金 (末残) *2



預金 (末残)



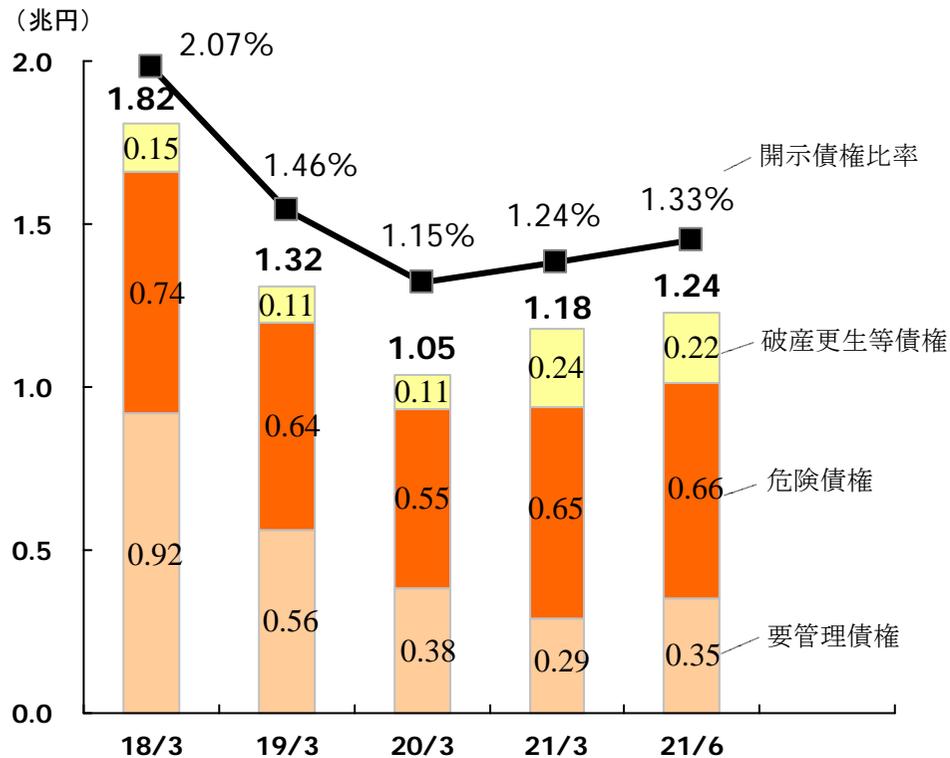
貸出資産の状況

【連結・2行合算】

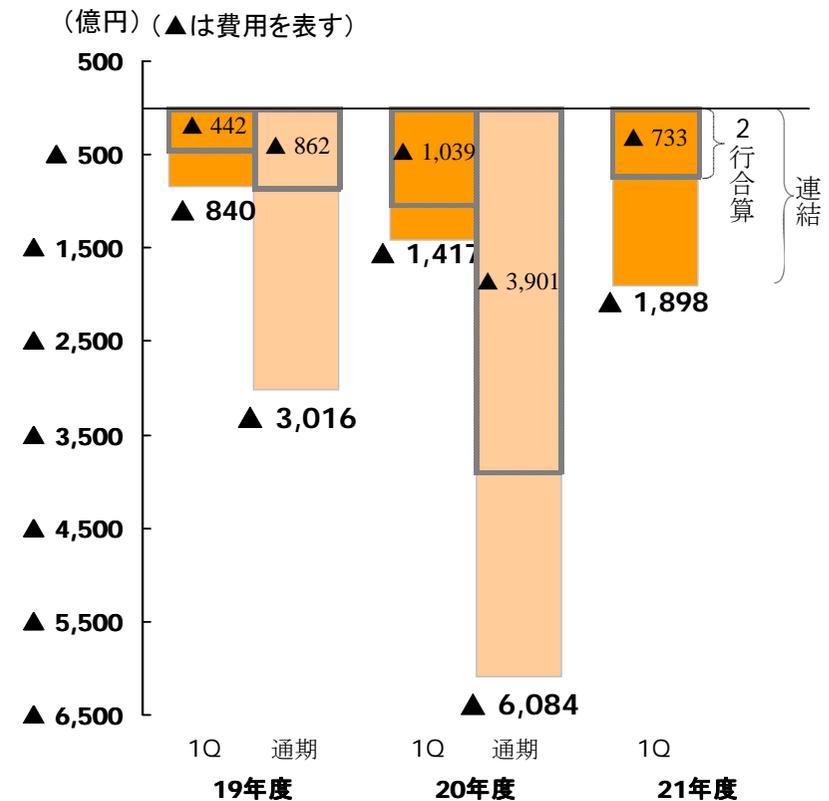


- 要管理債権の増加により、開示債権比率は21/3末比0.08ポイント上昇の1.33%
- 与信関係費用総額は2行合算で733億円、連結では1,898億円の費用計上

金融再生法開示債権残高(2行合算)



与信関係費用総額



保有有価証券の状況

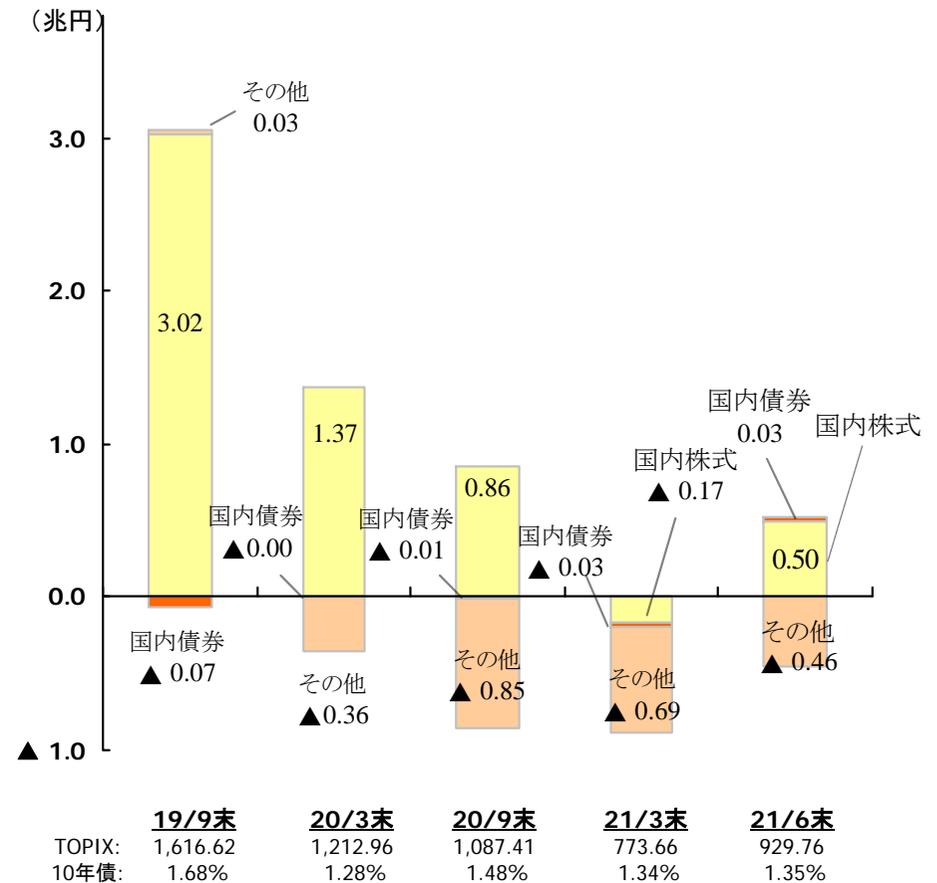
- 国内株式の評価損益改善を主因に、その他有価証券全体の評価損益は21/3末比0.98兆円増加

その他有価証券(時価あり)の内訳

(億円)

	21年6月末 残高	評価損益	
			21/3末比増減
合計	462,571	701	9,879
国内株式	43,516	5,007	6,805
国内債券	293,063	341	727
その他	125,991	▲4,648	2,346
外国株式	2,785	293	500
外国債券	101,921	▲544	▲253
その他	21,283	▲4,397	2,098

その他有価証券評価損益の推移



● 証券化関連商品等の残高は約2.2兆円(21/3末比▲0.1兆円)

残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)、管理ベース

- 証券化商品等の残高は、格下げ・価格下落リスクのある銘柄の売却および償還により、2.2兆円に減少(21/3末▲0.1兆円)
- 評価損益は▲2,910億円と、21/3末比930億円改善
- 当第1四半期の損益(P/L)への影響額は、売却損による▲60億円

残高及び評価損益

	(億円)	残高		評価損益		内、満期保有目的の債券*	
			21/3末比		21/3末比	残高	評価損益
1	RMBS	1,480	▲490	▲270	190	0	0
2	うちサブプライム	440	▲70	▲50	40	0	0
3	CMBS	260	▲10	▲20	0	0	0
4	CLO	16,670	▲280	▲2,350	510	13,090	▲1,810
5	その他(カード等)	3,300	▲230	▲240	220	290	▲20
6	CDO	150	▲50	▲30	0	40	▲20
7	SIV	0	0	0	0	0	0
8	合計	21,870	▲1,060	▲2,910	930	13,420	▲1,840

* 実務対応報告第26号「債券の保有目的区分の変更に関する当面の取扱い」の公表に伴い、平成21年1月末以降に保有証券化商品の一部を「その他有価証券」から「満期保有目的の債券」に区分変更。なお、上記満期保有目的の債券の残高・評価損益は、区分変更前の簿価を基準としています。

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。